

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 22 日 作成  
20年度決算把握後平成 21 年 6 月 22 日 作成

総合計画体系	事務事業名	学校研究指定校助成事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連		
	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	中島正剛
	施策	19	義務教育の充実			所属課	学校教育課	担当者名	谷和浩
	基本事業	65	指導力の向上			所属班	学務指導班	(内線)	2236
					法令根拠	なし			

予算科目	会計	1	款	10	項	1	目	3	事業連番	10702	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	6
													コスト削減優先度評価結果	9

事業期間  単年度のみ  単年度繰返(開始年度 不明 年度)  期間限定複数年度 ( ~ 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】  
県や地教委および市教委の研究指定校の指定を受けた学校に対し、市の教育水準を高める研究活動としてその費用を助成するもの

【業務の流れ】  
研究指定校指定、補助金申請受付事務、補助金交付事務、研究成果確認事務

【主な予算費目】  
負担金補助及び交付金

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動)	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 20年度と同じ 県や地教委の研究指定校の指定を受けた学校に対し、市の教育水準を高める研究活動としてその費用を助成した
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	研究指定を受けた学校
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	教育課題の解決や、各学校の特性や地域の実態に応じた教育実践を研究し、その成果を多くの学校に広めてもらう。
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか)	指導力が身につく
	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) 校 ⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) 校 ⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) % ⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) %

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業内訳	単位	18年度	19年度	20年度	20年度	21年度	22年度	23年度	全体計画
			実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	(目標)	(予定)	
事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0	総 ト ー タ ル コ ス ト (期間限定複数年度のみ記載)
	都道府県支出金	千円	200	500	300	330	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	繰入金	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	1,100	800	1,150	1,000	1,600	1,600	1,600	
	(A) 事業費計	千円	1,300	1,300	1,450	1,330	1,600	1,600	1,600	
人件費	うち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	22年度
	うち時間外、特殊勤務手当	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	4	
	延べ業務時間	時間	70	70	70	70	70	70	70	
(B) 人件費計	千円	278	279	279	279	279	279	279	0	
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,578	1,579	1,729	1,609	1,879	1,879	1,879	0	
活動指標	校	6	6	7	7	8	8	8	0	
対象指標	校	10	10	10	10	10	10	10	0	
成果指標	%	60	70	70	70	80	80	80	0	
上位成果指標	%	89	101	110	129	120	130		0	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?  
いつ頃から始まったかは不明。教育課題の解決や、各学校の特性や地域の実態に応じた教育実践を研究し、その成果を多くの学校に広めてもらうため事業が開始された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?  
週5日制の完全実施、学習指導要領の改訂等に伴い、教育に対する関心はさらに高まっている中、学力低下を懸念する声も聞かれる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?  
特になし

事務事業名	学校研究指定校助成事業	所属部	教育委員会事務局 教育部	所属課	学校教育課
-------	-------------	-----	-----------------	-----	-------

2 評価の部(SEE) \*原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 教育課題の解決や、各学校の特性や地域の実態に応じた教育実践を研究し、その成果は多くの学校に広がっていることから、結果の指導力が身に付くことに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 教員の指導力を向上させることは、子どもの学力向上等につながる義務教育の充実であり、学校設置者の市が行うのが妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 対象・意図とも適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 研究の内容・方法について検討を加えられた予算で最大限の効果を発揮するようにする。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 教育課題の解決や、各学校の特性や地域の実態に応じた教育実践を研究する機会がなくなり、廃止・休止の影響は大である。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 県指定、地教委指定等があるが、通常の場合市研究指定とかねているので同一事業としてとらえている。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】↷
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 該当学校に補助金として、最低限度の予算をつけており削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 必要最低限度の業務時間であり、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ この事業により特定の個人又は団体が利益を受けるものではない。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒ ②有効性については、研究の内容・方法について検討を加えられた予算で最大限の効果を発揮するようにする。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 研究の内容・方法について検討を加えられた予算で最大限の効果を発揮するようにする。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																							
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策  
的確な教育課題の把握や、各学校の特性や地域の実態に応じる教育実践内容の把握

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	2	( 直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9 )
(2) 貢献度	3	( 貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12 )